

太陽の子

2018年 10月 No.165

秋の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール npo@taiyonoie.com

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



ピピコンサートに行ってきました。楽しいリズムに体を揺らし、
素敵な詩に涙もこぼれました。(太陽の家)

母の想いにのせて

第15回ピピコンサート

実行委員長

黒澤智子

九月一日に多賀市民会館で行われました第15回ピピコンサート
実行委員長という大きな役目をやらせていただきましたが、ピピ
スタッフ仲間のお陰で素晴らしいコンサートとなり、感謝と共に無事
に終えた気持ちで今ホッとしているところです。

私は障害を抱えてこの世に誕生し、4歳まで首が座らず、まった
く歩けずで物凄い泣き虫でした。そんな私がピピコンサートに携
わったりなど、体にハンディがあることを気にもせずに日々過ごすこ
とが出来るのは、親がしてくれた行動と考え方のお陰かもしれませ
ん。特に母は見て分かる障害として生まれてきた私に、人に見られる
ことは当たり前であること、人目を気にしないで明るく楽しんで生き
ていてもらいたいという気持ちが強くあつたそうです。その強い
気持ちの表れとして、毎週日曜日に人が多く集まる場所、公園や駅
ビルのデパートへ出掛けて行きました。私は幼稚園児でしたから色々
な所へ連れていって来て嬉しかったことは覚えていますが、母の想
いがあつての行動であることは知りませんでした。わざわざ人の多く
集まる場所、しかも日曜日ですから小学生、中学生の子供達は沢山い
ます。じーっと見られますし、また「なにあれ(体が)ちっちゃいよ!」
という驚きの声も聞こえました。「なんで小さいの?」と私を追い掛
けてきて質問をしてくれる子もいたり私は恥ずかしい気持ちが強く
ありました。ただ不思議と嫌だなあとという気持ちにはなりませんでし
た。私はまだ子供でしたから声を掛けてもらえたことが嬉しかったの
だと思っています。

私のことを包み隠さず周囲にありのままを話してくれたり、障害
を理由に私が楽なほうへとズルい考えや気持ちにならないよう特別
扱いをしなかつた親に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も親の想いを忘れずに、自分が感じた様々な体験など、お役
に立つことがあれば伝えたりと私が出来ることを精一杯頑張ってい
たいと思っています。

卓球バレーの魅力

日立市しいの木学園 鈴木雅明

皆さん、「卓球バレー」を知っていますか？以前に映画にもなった「〇〇〇〇バレー」とは違いますよ。名前は聞いたことある！という方、この際しつかりと覚えて下さい。

卓球バレーとは、卓球台を囲んで6人対6人で楽しむ日本発祥のユニバーサルスポーツなんです！ユニバーサルスポーツとは年齢や障害に関係なく楽しむ事ができるスポーツの事なんです！転がってくる音が鳴るボールをラケットで打ち返したりパスをしたり、6人で一体となって楽しめる、まさにバレー！しかし台やボールは卓球という名前の通り異種混合スポーツ！だいたい仰々しい話になっちゃいました、端的に言うともみんなが楽しめるスポーツという事です。我がしいの木学園でも体育活動として取り組んだことはありましたが、まさか自分達でラケットやそれらを入れる袋を作ることになろうとは思いませんでした。卓球バレーフルセット1万円（税込）ラケット12本セッ

ト3800円（税込）

実際にプレーしてみると、見た目の地味さと競技としての楽しさのギャップにビックリしました。最初のうちはやさしく打ち返したりしていたのですが、そのうち白熱してくると、ほとんどの人が熱中して、おしりがイスから離れてプレーしてしまうほどでした。（※卓球バレーでは、イスからおしりを離してプレーすることは反則です。）

うまく手を動かせない方でも、ラケットをその場所に支えているだけで立派なディフェンスになります。高度になるとチームとしての戦術も必要とされます。基本的にイスに座ってのプレーなので、車イスの方も参加できます。まさにいろんな方が参加できるユニバーサルなスポーツ！それが卓球バレー！

今度新しくできる新施設の交流スペースにも卓球台が置かれるのか。今後は地域の交流イベントの開催や卓球バレー大会のサテライト会場と

して、地域の方や利用者の方の楽しい笑い声が聞こえてきそうですね。ぜひその際はしいの木の卓球バレーセットを使って頂きたいです。



職員リレー

人と人が関わること

日立市太陽の家 坂内詩織

太陽の家に就職して、あっという間に4年が過ぎました。就職したばかりの頃は、右も左も分からず、オドオド。キョロキョロ。目の前にいる利用者さんに、自分は何をするべきなのか？と考える余裕はななく、一日が駆け抜けていくばかり。私にできることなんてないんじゃないか……私はどうしてここにいるのだろうかという悩み、少しずつ自分の殻に閉じこもっていく感覚があったのを覚えています。

楽しもう！と考え方を変えるのと、不思議と気持ちに余裕が出てきました。今では、私のことや面白く言ってくれたり、顔をツンツンと触ってくれたり、茨城ネタを話したり、時々ぶつかりあったり……。そんな人と人との関わり合いがとても楽しく思えて、今日食のメニューの絵はどう描こうかな？と考えを巡らせています。

そんなあるとき、ふと周りをしてみると利用者さんも職員も、皆が心から笑顔で関わりあっていることに気がきました。その様子を見たときに、今の自分に欠けているものが分かったような気がしました。もちろん、全く笑って

最後になりましたが、利用者さんのために何ができるのか、まだ気が付きが足りず、周りの皆さんに助けていただければかりですが、より良い関わりができるよう努力していきますので、今後もよろしくお願いたします。

いかなかったわけではありませんが、心から笑うこと、一緒に楽しむことをいつの間にか忘れてしまっていたのです。それ以来、とにかく一緒に



日立守る会だより

日立重症心身障害児(者)を守る会

第四十回「三団体記念大会」を終えて

日立重症心身障害児(者)を守る会会長 藤枝 利彰

去る六月二十三日(土)第四十回すべての障害児(者)の幸せを守る親の大会記念大会を迎えると共にすべての障害児(者)の幸せを守る親の会連絡協議会結成五十周年の行事を無事終了することができました。役員として三年間に亘り、三団体の役員の方々には深く感謝をしたいと思います。

当日は小川日立市長はじめ多くのご来賓のご臨席をいただき盛大に行われました。大会の日程は来賓の挨拶につきき講演会として日本福祉大学福祉経営学部 綿祐二教授による「すべての障害児(者)の幸せを守るために」重症心身障害者の将来の生活設計」のテーマで講演を頂きました。六人家族の綿先生は両親と三人の兄弟がいずれも障害がある中で育った体験を紹介し、「障害者やその家族が生きるのには楽ではないが、幸せだった」と笑顔で語ってお

られました。家族が準備すべきこととして、経済的な自立を図るために昼間どこにいて誰の支援を受けるかの「日中活動」自宅を離れて暮らす場を確保する「居住」みとりを含めた「後見」の三つを挙げられました。綿先生は「家族も若くない。子どもを早く動いてほしい」と呼びかけ講演を締めくくりました。引き続き日立市に対し要望十項目を発表決定致しました。

午後の部は佐藤大武君親子によるピアノ&パーカッションの演奏があり会場の皆様は迫力ある演奏を堪能する事ができた事と思います。最後につくし会の皆様のミュージック・ケアで無事大会を終了する事ができました。

守る会の提出要望事項(重度重複障害児(者)の支援施設整備を是非お願いしたい)に對しての市からの回答は(障害福祉課)【御案内のとおり、地

域生活移行という国の方針によりまして、新しい入所施設の整備は困難な状況にあります。そのような中で、本市におきましては、鳩が丘障害者福祉施設再整備事業において、地域生活支援拠点となるグループホーム、身体や知的及び精神など障害区分にかかわらず利用することができ、緊急時の短期入所的な利用や将来の自立生活(居宅サービス)を利用しながらの生活)に向けた訓練も可能となるグループホームの整備を進めております。これを体験利用していただき進むべき道は、入所施設以外に選択肢があるかどうかを御確認いただきたいと考えております。居住の場としてのグループホームの整備につきましましては、引き続き民間事業者等の協力を得ながら取り組んでまいります。

一方で、心身の状況等により、施設入所支援の利用が必要なものもいます。入所施設の整備については、本市の長期的な課題として関係者の皆様と共に知恵を出し合い、目標達成に向けて協力して取り組んでまいりたいと考えております。以上が市からの回答です。以上が市からの回答です。以上が市からの回答です。

新たな気持ちで

大森 孝子

今までは日立太陽の家の色々なサービスを利用しながら我が家は子供中心の生活を送って来ました。

父親が定年になり少しの間家に居り今まではない日常が子供にとり少しとまどいがあつたのではないかと思いましたが、

再就職が決まり11ヶ月が過ぎようとしています。今までの生活スタイルとは違い出掛ける時間がまちまちで現在の日常に慣れるまで時間がかかりました。子供にとつても同じではなかったかと思えます。今は子供の為お互いが健康に気を付け過ぎるよう心がけコミュニケーションを多く取るようにしています。感謝の気持ちは声に出し「おつかれ様」と言うようにしています。毎日この言葉を大切に「目くばり」「気くばり」思いやりの気持ちを忘れないようがんばっていききたいと思っています。

家族旅行

田尻 陽子

昨年の春に静香の妹が結婚を控え、私が子育て真最中

に奮闘していた頃に子供達と行った房総半島に私達夫婦、子供達四人を含め六人で、日帰りでしたが、私の念願だった以前と同じ道をたどり家族旅行に行つて来ました。当日一時遅れの出発でしたが、静香もいつものちがいが、浮き浮きしているように私には映りました。

さて観光ですが、日立から常磐道を走り、東京からアクアラインで千葉に入りました。私が一番行つてみたかった勝浦海中公園に、十時過ぎに到着しました。公園は以前来たときと同じ穏やかな波間に凜と立っていました。魚達も「ゆらりゆらり」楽しそうに泳いでいるように見えました。やっぱり家族で来てよかったと思える一時でした。

昼食は九十九里浜で取りました。お父さん、長男はお酒を飲みながら以前来た時の房総の思い出の話をしていました。私も当時のことを同じ視線で感じていました。私にとつても静香にとつても「とつてもとつても」良い思い出を作れた家族旅行でした。



毎月行っている避難訓練。この日は火災の避難訓練でした。皆が避難できて安心したところをパシャッ。
(ひまわり学園)



風の家でも毎日たくさんの洗濯物が出ますが、廊下に干す作業を見ていたTさんがお手伝いをしてくれました。とっても助かりました。(風の家)



「僕の顔 覚えてくれたかなあ？」重度訪問介護を利用して月に1回散髪に行っています。床屋しいなさんいつもありがとう。(居宅介護事業所)



ステージの袖から入選者の皆様の顔を見ていたら、はじめは緊張の顔から、戻って来た時には晴ればれとした表情に。良い時間がつくれたのかな？と幸せな気持ちです。
(ピピコンサートスタッフ)

太陽の家に 通い始めて

(前頁より)

鈴木雄子

四月からお世話になり始めました鈴木日菜の母です。よろしくお願ひいたします。

学校を卒業したら日菜はどうしたら良いのか不安でしたが、太陽の家に入る事ができ週に二回楽しく通う日菜を見て安心していきます。

太陽の家に通うお友達からたくさん刺激をもらい、職員のみなさんもととても明るく接してくれるので毎回楽しく通いで通い始めて五ヶ月ですが日菜はとても表情もよくなり話しかけるとすぐ良い反応をしてくれてうれいのです。私も太陽の家に通う先輩お母さんたちからいろいろ教わる事もありお話できて楽しいです。

日菜はてんかん発作はなかなかおさまらず月三回ほどの発作はあるものあまり風邪もひかざごはんもたくさん食べてくれるので助かります。

太陽の家でこれから楽しい事をたくさんして楽しい思い出を作っていけたらいいなあと思います。

これからも親子共々どうぞよろしくお願ひします。

◎平成三十年度
NPO法人日立太陽の家
利用者総数

三百二十名
男性 百八十六名
女性 百三十四名

〇計報

しいの木学園 梶山静子さん
バスを乗り継ぎ坂道を歩き元気に通っていました。顔を合わせる時笑顔で挨拶を交わしました。その姿を忘れません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

〇寄付ありがとうございます
ぐさいしました

〇次の方から寄付を頂きました(敬称略) 六月〜八月
黒澤弘明 とく名 小林豊
しいの木学園保護者会

金澤博美 NPO法人日立太陽の家支える会

〇次の方から物品の寄贈がありました(敬称略)
六月〜八月

椎名将光 與澤幸夫
川又陽子 神保江利子
森山唱子 村田理恵
大森健二 河野大輔
葛西紀子

編集後記

秋の夜長は心静かに、豊かな時間を過ごしましょう。

(K記)